

関ヶ原の戦い布陣図

©2018MAP&NEWS.net



関ヶ原の戦い (せきがはらのたたかい) は、安土桃山時代の慶長5年9月15日(西暦1600年10月21日)に美濃国不破郡関ヶ原(岐阜県不破郡関ヶ原町)で行われた戦い。関ヶ原に於ける決戦を中心として、日本全国を舞台にして行われ、徳川家康の覇権を決定付けた戦いである。豊臣秀吉死後の政権を巡って争われた徳川家康を中心とする派と石田三成を中心とする派の間の決戦。日本全国のほとんどの大名を徳川派(東軍)と反徳川派(西軍)に二分したこと、戦いで勝利した家康が政権を完全に掌握して徳川氏の覇権を確立したと考えられてきたことから『天下分け目の戦い』とも呼ばれている。なお、西軍総大将は毛利輝元であり、副将は宇喜多秀家であるが、西軍が石田三成を中心とする派閥であったことには変わりない。また、関ヶ原において戦闘の中心となった東軍の武将のほとんどは豊臣恩顧の武将であった。戦いの性格が豊臣家の家臣同士の成敗合戦ということから、豊臣家自体表向きは静観の立場を取っていた。

■ 西軍
 ■ 東軍
 ■ 寝返り

